

公益社団法人 地盤工学会 関東支部

各種サウンディング技術の液状化手法としての適用性に関する研究委員会
WG1（動的サウンディング）

平成26年度第1回 WG1 議事録

日時	平成26年9月22日(月) 10:00~11:30	場所	地盤工学会関東支部 3階小会議室
出席者	規矩大義, 吉澤大造, 石川敬祐, 中澤博志 伊集院博, 小濱英司, 澤田 亮, 平出 務		
欠席者	なし		

(敬称略)

配布資料

資料 No.	資料
資料-1	委員会報告書目次（案）, 委員会設立趣意書
資料-2	委員会とりまとめ内容（案）
資料-3	第49回 JGS 研究発表会（北九州）
資料-4	浦安地盤調査一斉試験報告会論文集（動的サウンディング抜粋）

内 容

委員会報告書とりまとめ内容について

2章 液状化に有効な国内外のサウンディング技術資料の収集・整理

- ・これまでのとりまとめ資料（様式-1~様式-3）に説明分を付け加えて完成させる。

3章 抽出したサウンディング技術の液状化判定手法としての適用性の検討

- ・WG1でのサウンディング試験の実施がPDCに限定されることから、試験機構の詳細（トルクの補正係数やエネルギー効率等）についてはなく、地盤特性（ N 値、細粒分含有率）や深度に対する適用性（データのばらつき、精度）について考察する。考察にあたっては、香取市現場実験の他、これまでに実施された千葉県浦安市や滋賀県守山市における一斉試験のデータも活用する。
- ・大半のサウンディングが N_d 値のみの評価で単独では液状化判定が困難であるが、ボーリングの補間調査としては適用が期待されることから、補間調査としての適用性についても検討する。また、コンパクトかつ簡易で狭小地や作業上制約の多い場所でも迅速に対応できる等の施工面の長所等を記述する。
- ・ボーリングの補間調査としての事例があれば、報告書に紹介する。

4章の香取市現場実験結果と考察

- ・WG1で実施したPDC以外のサウンディングについては、地盤工学研究発表会（北九州）の論文を整理する程度にとどめる。
- ・地盤工学研究発表会（北九州）の論文では、 N_d 値のエネルギー補正、ロッド周面摩擦のトルク補正、打撃装置自重の影響等についてまとめられている。

以上